

■洞薬会（北九州地区勤務薬剤師会） 12月度学術講演会
（2011/12/1, 18:30～, 会場；ステーションホテル小倉）

「当講座における慢性疼痛管理における薬物療法の変化」

大分大学医学部麻酔科学講座・ペインクリニック・緩和ケア支援チーム 奥田健太郎先生

〔講演要旨〕

疼痛は人口の18-63%が日常生活を損なうほど重症の痛みを経験し、有効な治療を受けているものはこのうち30%に過ぎないという報告があります。大分大学麻酔科学講座においても2004年に日本における疼痛の大規模調査（n=18,300）を行い、慢性痛保有率は13.4%で満足ゆく治療を受けたものは22.4%と報告をしています。

そのため疼痛管理法について当講座でも神経ブロックや薬物の使用法にも徐々に変化が認められるようになってきました。

今回の講演では当講座における疼痛管理に際してこの数年で採用されるようになった薬物や従来からある薬物の使用法の変化などに重点をおいて臨床例も交えてお話したいと思います。